

平成 27 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	救命救助研究会
活動テーマ	災害時の活動を安全に行うための新資器材の開発



阪神淡路大震災や福知山線列車事故でも経験した、長時間重量物に挟まれた際に起こる、クラッシュ症候群の治療で最も重要なものの一つが大量輸液であることは、医療関係者や救助関係者にはすでに広く知られている。しかし、最優先するこの治療を行う救助現場は、非常に危険かつ混乱した状態であることがほとんどである。また、DMAT（災害派遣医療チーム）やレスキュー隊等が活動する場所は、非常に狭隘なことが多い。そのような中で、静脈路を確保し輸液を実施した事例で、医療側から見れば、救命するための生命線でもある輸液ラインを引き抜く事故を私たちは身近で3件経験した。いずれもヒューマンエラーが原因であり、どうしたら引き抜き事故を防止できるかを検討した結果、そもそも引っかけられない構造の新資器材の考案に至ったのである。救出時に一時的にクレンメを閉鎖して、穿刺部位に輸液バック、ルートと一緒に巻き込み固定することで、救出活動時にルートの引っぱりを防止するとともに、穿刺部を固定し保護するシーネを開発したものである。これにより、引き抜きに関する危険性はほぼ無くなったと考える。開発に当たっては、検証訓練を繰り返し改良を加えながら最終的な形状に至ったものである。今後は、さらに検討を重ね製品化を目指すとともに、同じ事故を起こさないためにも広く事故防止について啓発することが重要であると考えます。